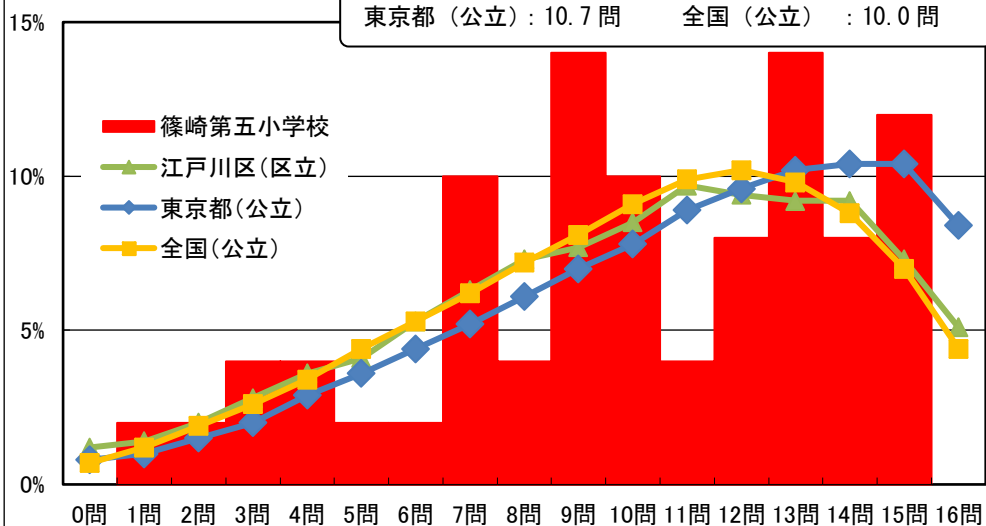


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 篠崎第五小学校

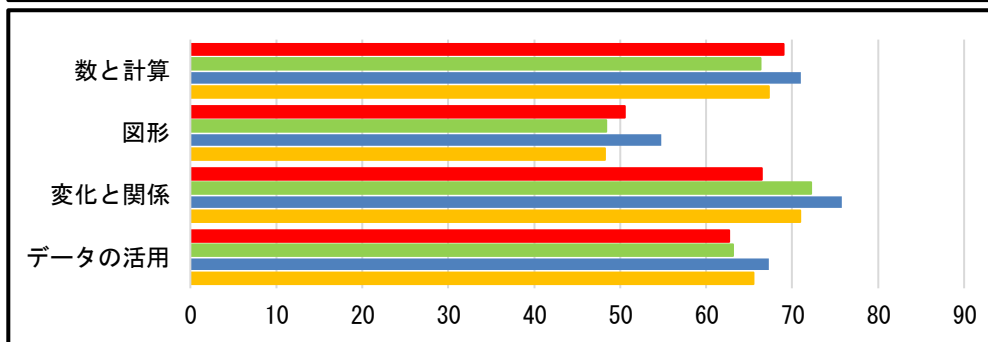
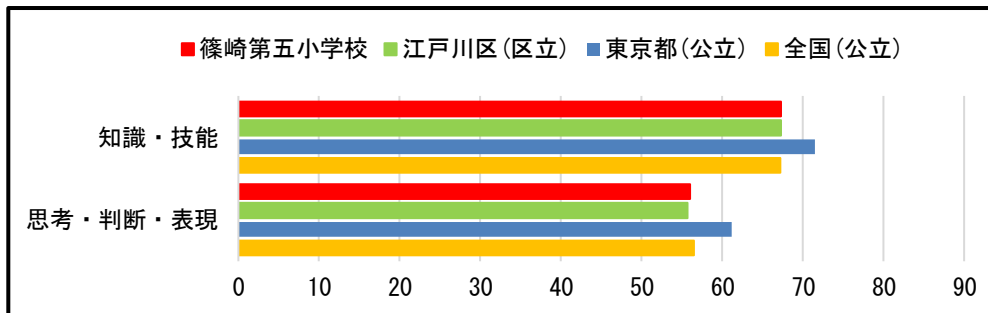
正答数分布

平均正答数

篠崎第五小学校:10問
 江戸川区(区立):10.0問
 東京都(公立):10.7問
 全国(公立):10.0問



「領域別」の結果



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← 下位

算数	四分位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 8~10問	D層 0~7問
篠崎第五小学校	20	26	28	26
江戸川区(区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都(公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国(公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

【平均正答率の差】

篠崎第五小学校	62%
江戸川区(区立)	62%
東京都(公立)	67%
全国(公立)	62.5%
都との差	5ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

- 全体として、全国平均に近い結果となった。「知識及び技能」は、では全国平均に近いが、「思考・判断・表現」は全国平均を2.5ポイント下回った。領域別にみると「A 数と計算」が1.7ポイント、「B 図形」が2.3ポイント上回った。しかし、「C 変化と関係」は4.4ポイント、「D データの活用」は2.8ポイント下回った。
- 計算問題ではできるが、文章問題になると立式できなくなる児童が多い。日頃から問題文の読み取り方の指導(「わかっていること」「聞かれていること」を確認するなど)をしたり立式するだけの練習問題を解いたりしていく。また、国語の分析結果とも連携させて向上させていきたい。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。